

鴻池荘 通所リハビリだより

令和1年
10月号

通所リハビリテーションに期待されていること

重介助者に対する通所リハビリテーション



近年、軽度者のICFにおける活動・参加に対する具体的アプローチについて書かれている文献は増えてきましたが、重度者を対象としているものは少ないです。また、重度者ほど、障害の程度や環境面への配慮（物的・マンパワーなど）の必要性が大きく、活動や参加の視点を失いやすくなることから、一辺倒な治療・支援となりがちな要因とも考えられます。

通所リハビリテーションでは、日常生活動作で重度の介助が必要となっている利用者に対して、自宅での課題の聞き取りや身体状態の専門的評価を行います。その結果を踏まえて自宅内の環境調整、車椅子やベッドのポジショニングを行い体調管理や褥瘡を予防したうえで、介助方法の伝達等行い離床や外出への働きかけに重点をおいています。今回は、鴻池荘をご利用して頂いている方の一例をご紹介します

在宅生活での課題

難病指定の疾患を発症され、自立した生活を送られていたが、約半年間という短期間の中で生活動作の低下、認知機能面の低下を認め、ベッド周囲の生活が中心となり介助が必要になられた男性利用者。認知機能面の低下により、疎通が難しい事に加え、臥床傾向による全身の筋力低下、立位保持が困難な事から移乗時の転倒の危険性を有していました。また、誤嚥性肺炎による入退院、長時間の臥床や車椅子座位時の臀部ズレによる褥瘡の発生も多く認めていた状況。主介助者である妻は義母の介助をしつつの対応である事、重介助は初めてであり、短期間での能力変化に戸惑いや対応方法に困惑を持たれておられた。

他職種との連携について

褥瘡処置の対応方法、嚥下機能不良に対する服薬方法を訪問看護へ、自宅で実施している訓練や自宅環境・課題等を訪問リハへ確認を行いました。

通所リハでは毎回、利用時に吸引評価を行い、また誤嚥予防につながる口腔ケアの方法を歯科衛生士より提案させて頂きました。



通所での機能訓練について

疎通が困難な事、重度障害を有した方への専門的な能力発揮を目的に、個別に対応。また歩行訓練も行っていたが、突然の膝折れがあり、転倒の危険性も



認めていた為、サドル付き歩行器にて実施。その結果、移乗時、能力が十分に発揮できる介助が可能となり、車いすで過ごせる時間の確保に繋がりました。

太極拳

サービス紹介



王先生

太極拳は、古来より中国に伝承された武術です。ゆっくりとした動作を行う全身運動という特性が健康へつながり、一般市民の生涯スポーツや健康づくりのための運動として、中高齢者を中心に幅広い年齢層で実施されています。



当荘での取り組み



認知症・転倒予防や活動量向上、柔軟性向上などを目的に実施しています。皆様ゆっくりとした動作で全身運動が行えると好評です！！

利用者作品紹介(N氏の作品)



利用者自身の自発的な楽しみ作りへの支援を心掛けています

ここに来ると元気が出るので、久しぶりにやってみました。以前のように書けるよう、今は練習中です！

介護老人保健施設鴻池荘
受付時間 9:00~17:00

TEL 0745(64)2180
FAX 0745(62)1092
担当者：相談員

